

## 今年もやります！！ リサイクル制服お渡し会



平成23年9月26日27日  
午後4時～5時  
会議室にて（仮設校舎2階）  
体育館シューズ、柔道衣も若干有り！サイズなどは、あらためてご案内します。

「校長先生を囲んで

教頭先生も囲む会」

9月30日（金）

午後7時～会議室にて

30日の金曜日、校長先生や教頭先生と懇談できる時間を設けます。体育大会や新人戦の感想、文化祭に向けての思い、日頃の学校の様子など何でも聞いてください。

### お知らせ

東日本大震災で親を亡くした子どもたちの支援をするという明確な目的をもった「桃・柿育英会」への募金を總會にて呼びかけたところ、**8,101円**のご寄付を頂きました。皆様ありがとうございました。

### 3年生、2年生学年懇談会が開催されました！

7月15日開催の3年生は、夏休みにやるべき5教科の学習内容や、三者懇談会に向けての心積もりなど、進路選択についての説明を伺い、また、若い先生方が中3の夏の受験勉強体験などをお話しされました。

8月23日開催の2年生は、「思春期を迎えた子どもたち」というテーマで友人関係、携帯、メール、服装、学習、門限など盛りだくさんの話ができました。先生からは家庭学習について「落ち着いて出来る一定の時間と文字に触れる学習を大事に」など、アドバイスを頂きました。

残念ながら1年生は台風のため、一学期の開催は見送りとなりました。

### お知らせ2

向日市少年補導委員会  
創立40周年記念式典  
9月4日（日）9時45分～  
向日市民会館

記念講演 坂本達氏  
「夢に向かって！  
今、あなたにできること」  
参加費・無料

### 夏休みパトロールに参加しました！

お盆を除く夏休みの土曜日、地域委員会、本部役員、先生方で分担し、向日市少年補導委員会のパトロールに参加しました。勝山中学校は校区が広いので今年も向日市8支部のうち6支部のパトロールに参加。夜9時から地域の方や先生方と校区を一緒に歩きながら、会話もはずみます。「地域の方が子ども達を見守ってくれてはるのがとてもありがたいですね。」と地域委員さんから感想を頂きました。

### 向日市PTA連絡協議会主催の講演会 「東日本大震災の被災地から」開催

夏休み7月30日土曜日、市民会館に70名以上が集い金田真須美さんのお話しの耳を傾けました。当日は衣類や防虫用品を会場にたくさん届けて頂きありがとうございました。

金田さんが、「遠くにいて思いを寄せる事も支援です。被災者はもちろん私達の励みになります。」と話されたのが印象的でした。紙面右に講演要旨を掲載しています。

## 講演会

### 「東日本大震災の被災地から」

#### 講演要旨

講師 金田真須美さん(ボランティアグループ「すたあと長田」、「チーム神戸」代表)

「すたあと長田」は1995年の阪神淡路大震災時に被災者によって立ち上げられて以来、新潟中越地震被災地、兵庫県佐用郡水害被災地など日本全国で活動을続け、現在は震災直後から宮城県石巻市の避難所に入り、高齢者や子どもなどの“災害弱者”を支えることを大切に「チーム神戸」として支援活動をされています。「チーム神戸」とは、ボランティアグループ「すたあと長田」が災害地支援を行う際に、団体・個人・企業等の枠を越え、多くの市民がより効果的に被災地支援を行うために協働するユニット名称です。

「すたあと長田」は、阪神淡路大震災時に自分たちの問題に自分たちが継続して関わっていきこうという理念の基に発足しました。たくさんのボランティアに支えられ、ゆっくりではあっても確実に一歩ずつ前進することができました。良き伴走者が周りにたくさんいることを被災地の方々に知ってもらうため、また、余りにも厳し過ぎる道のりで気持ちが萎えそうになる時、私たちボランティアがそれを支えようという思いから、被害の甚大であった石巻市立港小学校の避難所に「チーム神戸」が根ざし、現在も活動をしています。「チーム神戸」の活動としては、高齢者や要介護者の介護避難所への移動や、支援物資の収集、仕分け、配分、泥掻きなどがあります。ハ工対策等、ボランティアや地方行政だけでやれることではない部分は国に任せるなどの見極めも必要です。そして、自転車で街を練り歩きながら被災者と顔見知りになり、そこから情報を入手しています。そうすることにより、災害現場で一番気を払わないといけないその地域の特徴、地域性を知ることでもできます。

3月11日から5ヶ月が経とうとしている現在、ボランティアを含めた被災者のメンタルケアが必要な時期にきていますが、現実としてなかなか

進んでいません。被災地の子どもたちのことで一番気がかりなのは転校です。被災地内ならば皆さんが理解を示してくださると思うのですが、他府県に引っ越してしまうと、その子どもたちをどう受け止めるか、というのはとてもデリケートな問題なのです。いろんな所でいろんな方たちが知恵を出し合い、少しでも前進するために未だに模索しています。

また、石巻では核家族化がそれほど進んでいないからこそ、子どもたちは大人に守られているということを理解しています。皆さん我が子を守ろうという気持ちは強いと思います。自分の子どもを同じように守ろうとしてくれている人が周りに複数いたら、こんなに心強いことはありません。それが地域の関わり方だと思うんです。自分の子どもは自分で守らねばというのは、ちょっとしんどい。健全な社会を私たち大人が整備して、子どもをその豊かなゆりかごのような社会の中で過ごさせるというのが一番願わしいことなんでしょうけれど、それは簡単なことではありません。もう少し小さな単位、町内とか、顔の見える範囲で、地域が、近所の人と一緒に見守ってくれている、地域全体で子どもを見守るということが進むといいなと思います。

今日ご縁をいただいて講演をさせていただき、私自身「もうちょっと進まんと」という勇気をいただきました。向日市の皆さんはじめ多くの地域の方々が、まだ自分たちにできることがあるのではないかと考えていらっしゃる。遠く離れた場所において思いを寄せることも大切な支援です。被災者は勿論、私たちも励みになります。地震大国の日本においては、どこでどんな災害が起きても不思議ではありません。私たちの取り組みが神戸で生まれて全国各地に種を飛ばしているのであれば、この地にいろんな種が飛んできて、ここにいらっしゃるたくさんの方が上手にキャッチして地に降ろし、いろんな花が咲くことを願っています。

すたあと長田公式ホームページ  
<http://www7.ocn.ne.jp/~start-n/>